

【港北区】平成 29 年第 1 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

(03)

開催日時	平成 29 年 2 月 7 日 (火) 11 時 10 分 ～ 11 時 55 分
場 所	港北区役所 4 階 特別会議室
出席者	<p>【座 長】佐藤祐文議員</p> <p>【議 員：7 名】白井正子議員、酒井誠議員、 川口たまえ議員、望月康弘議員、大山しょうじ議員、 酒井亮介議員、豊田有希議員</p> <p>【港北区：28 名】横山日出夫区長、小野崎信之副区長、 田畑和夫福祉保健センター長、 吉川直友福祉保健センター担当部長、 中村信治土木事務所長</p> <p style="text-align: right;">ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 平成 29 年度個性ある区づくり推進費予算 (案) について</p> <p>2 その他</p>
発 言 の 要 旨	<p>1 平成29年度個性ある区づくり推進費予算 (案) について</p> <p>2 その他 (資料説明・・・区長、副区長)</p> <p>酒井[亮]議員： 38 ページのオープンデータの利活用について、今後新しい活用策を検討していくということだが、どのように進めていくのか。</p> <p>柿沼区政推進課長： 今年度を実施した区民意識調査の結果を踏まえ、各地域ごとの特性を把握し、各分野の有識者と意見交換をしながら、どのようなものを地域に提供していくのが効果的なのか、検討していきたい。</p> <p>酒井[亮]議員： 41 ページの港北元気っ子事業の重層的な子育て支援体制は、育児不安の解消や孤立の防止の観点から、港北区の事業の要だと考えられるが、限られた区づくり推進費の予算では、限界があるように感じられる。局との調整で予算がついた場合、現状より更に踏み込んで実施したい事業があれば</p>

伺いたい。

石原こども家庭支援課長：

出生後、各家庭が新しい家族像を形成していくためのスタートアップの支援を行いたい。現状、地域子育て支援拠点では、拠点事業として実施しているが、親と子の集いの広場なども含めて、一緒に取り組んでいきたい。

酒井[亮]議員：

虐待防止事業の予算が増えているが、具体的にどのようなことに取り組むのか。また、こども青少年局の予算案では最初に子どもの貧困対策が記載されていたが、子どもの貧困に対する、港北区独自の取組があれば伺いたい。

石原こども家庭支援課長：

予算の増額については、虐待等の緊急時に利用できるよう、相談先等が記載された母子健康手帳用の下敷きを作成していく。

子どもの貧困対策については、港北元気っ子事業で行っているものは現状ないが、社会福祉協議会が食を通じた支援について研究会を実施しているので、区役所としても、情報共有をしながら、一緒に取り組んでいきたい。

横山区長：

今回、こども青少年局の予算案では、子どもの貧困対策として、寄り添い型生活支援事業を、新たに3区で実施することや、高校生の中退防止に重点をおいているが、実は港北区が中心となって局に対して要求し、実現したものである。貧困対策については、今後も局と相談しながら、港北区でできる取り組みを行っていきたい。

望月議員：

地域防犯について、民間主導で公園に防犯カメラを設置する活動もあるが、地域での防犯カメラ設置に対して、港北区はどのように取り組んでいくのか。方向性について伺いたい。

橡木地域振興課長：

防犯カメラについては、市民局防犯支援課が主体となって行っているが、来年度も引き続き、防犯カメラ設置費用の一部補助を実施していく。港北区でも地域振興課が窓口となり、地域の方の希望を集約し、新規設置を行ってきたい。

また地域の方が設立したNPOによる自治会町内会が設置する防犯カメラへの助成について、区としては、地域活動支援ということで、お手伝いをしてきた。今年度第1号機が設置され、引き続き活動をしていくということなので、区としても継続して助言していきたい。

大山議員：

緊急時情報伝達システムについて、「最大1万件登録可」と記載がある

が、登録先の選定方法を知りたい。また、応答機能の仕組みなど、システムの全体像について伺いたい。

林総務課長：

登録先について総務局からの区配予算では、151 の町内会長に登録いただくこととしている。加えて港北区では、昨年8月に発表された鶴見川の洪水浸水区域で家屋倒壊の恐れがある北新横浜、小机の2地域と、昨年11月に即時勧告対象区域に指定された大曽根台、日吉本町、鳥山町のがけ地について、それぞれの地域の町内会で説明会を開き、区役所職員が1軒ずつ訪問し、電話登録を依頼している。

(メッセージのデモを流す)

実際にこのメッセージが流れ、回答をいただき、回答のないところは町内会と連携してサポートするなど、連絡が対象地域全体に行き渡るようにしていく。

がけ地のうち、日吉本町と鳥山町は、概ね登録済だが、大曽根台については、件数が多いため、引き続き登録を依頼していく。

大山議員：

システムの回答について、避難が困難との回答があった場合、どこで把握し、誰がどのように対応するのか。

林総務課長：

区で状況を把握し、要援護者の対応については、民生委員の方と事前に協力をしながら、行っていく。現在、要援護者について、単身か家族がいるかなど、家族状況の把握を進めている。今後も引き続き様々な方法で取り組んでいく。

豊田議員：

今回の予算案について、様々な制約がある中で、非常に完成度が高い。実際に現場の職員が、本予算の執行をしていく訳だが、港北区のヒューマンリソースの状況と課題について聞きたい。

横山区長：

港北区は、他区に比べて様々な業務の指標が突出した数値となっているが、その数値に比例して職員が配置されているとは必ずしも言えない。体制強化を関係局に働きかけているが、厳しい状況である。引き続き、働きかける一方で、人材育成に取り組むとともに、質の高い施策、政策を通して、区民満足を高めることを目指していく。

豊田議員：

総務局の予算案に緊急時情報システム運用試行事業があるが、港北区の緊急時情報伝達システムとの相違点を聞きたい。

林総務課長：

概ね同内容と考えて、差支えない。総務局予算では、15区で町内会長へ

連絡できるシステムを運用することとしており、これに加えて港北区独自のリスクを持つ方へ連絡する仕組みを作っている。システムは、総務局と同じものを使用している。

白井議員：

11 ページの子育て関連施設交通安全対策事業について、どのような経緯で、新規で実施することになったのか伺いたい。

橡木地域振興課長：

就学前児童について、保育園への登園時等に、車の危険を感じたという意見が区民の方から多くあった。また運転する側からも、近辺に子育て関連施設があることが分かる表示が欲しいという意見があったこともあり、今回、子育て関連施設の近辺に電柱巻看板等を設置し、注意喚起を図ることとした。

白井議員：

送迎の時間だけでなく、日中の散歩など1日のうちで施設に出入りする機会は何度もあるので、一層の交通安全対策を期待する。

また、交差点や道路の周辺状況が変化して、危険になった場合は、安全対策が取られるよう対応していただきたい。(要望)

川口議員：

放置自転車の監視員事業について、放置自転車の台数が多い駅の1つである日吉については駐輪場所の確保など、根本的な解決策は考えられないか。

橡木地域振興課長：

道路局が毎年11月に台数調査を行っており、28年度の速報では、綱島では改善が見られたが、日吉は大きな変化が見られなかった。

根本的な解決については、自転車の保管場所の予定がある綱島と比べて、日吉では用地等の問題が未だ解決できていないので、容易でないが、今後も道路局と連携しながら、解決方法を検討していきたい。

川口議員：

人口も増加しているので、引き続き解決方法を検討していただきたい。(要望)

それから、ウォーキング普及啓発のフラッグの配布は、港北区独自のものか。

小野福祉保健課長：

港北区の独自事業である。元々商店街振興というコンセプトのもと、リーダーを設置したが、認識されにくかったため、すぐに認識できる方法として、更なるPRを図ることを目指す。

川口議員：

「港北区には横浜F・マリノスがある」プロモーション事業について、

ランドセルカバーのデザインは1種類のみとのことだが、全ての子どもが、このランドセルカバーを使用するのか。

橡木地域振興課長：

これは、交通安全協会と一緒にしている事業だが、マリノスは、港北区ならでは、ということもあり、是非このカバーを利用してほしいと考えている。

川口議員：

できれば、1種類のみではなく、無地など、選択の余地があると子どもにとっても良いと思う。

酒井[誠]議員：

安心して暮らせるまちづくりの部分の予算について、28年度よりも増額されているところに、港北区の意気込みを感じる。先程の副区長の説明にあったが、危機管理アンケートの調査で、区民の7割が地域防災拠点の場所が分からないのには驚くとともに、広報の仕方を考えていく必要があると感じる。

港北区では地域防災拠点を示す看板や防災アプリ導入に取り組むということだが、その内容について知りたい。

林総務課長：

看板については、普段学校に縁のない方でも認識、把握できるよう、駅に向かう大通りの途中などに設置することで、自然と認識、把握していただくことを目指す。

アプリについては、東京23区内で使用しているものを参考に、更に見やすくしたものを導入することを検討している。

あらゆる角度から、様々な世代の方に対して周知していきたい。

酒井[誠]議員：

次に、保育所について、かなりの人数が保留になっていたりと、保育園が毎年10園位できている状況の中で、保育士の確保についての現状と課題について聞きたい。

中田学校連携・こども担当課長：

現状、保育士の確保については、どの園でも苦勞している。横浜市では、保育士の就職相談会や保育所見学会等を行っているが、港北区内の保育園に就職していただけるよう、港北区独自でも就職相談会や保育所説明会を行うこととした。厳しい現状ではあるが、引き続き保育士の確保について取り組んでいく。

酒井[誠]議員：

港北区の保育園を選んでもらうような仕組みがないと、保育士の確保は難しいと思うので、引き続き取り組んでいていただきたい。(要望)

望月議員：

	<p>小流域水土砂災害対策について、実施の背景と今後の進め方について聞きたい。</p> <p>林総務課長： 26年度の台風18号発生時、新羽中学校のグランド脇の民地の奥の部分が崩落した。住居がなかったため、被害はなかったものの、建築局の調査だけでは把握しきれていない可能性があるため、慶応義塾大学の岸先生にご協力いただき、港北区独自に地盤の脆い部分についての調査を開始した。</p> <p>横山区長： 港北区では鶴見川流域という特性から、手の指を広げたような小さな扇状地が複数見られる。こういった扇状地で土砂災害が発生する可能性があるため、調査を実施し、場所に応じた対策を行っていく。</p> <p>佐藤議員： 年々、この予算案は分かりやすくなってきている。是非、事業が円滑に進むよう、今後も適正な執行を心がけていただくことを期待する。(意見)</p>
備考	